

県中教研 英語部報

発行所 ●福島県中学校教育研究会英語専門部
責任者 ●菅野 浩 智
発行 ●令和 6 年 3 月 1 日

内 容

県英語専門部長及び県教育庁義務教育課指導主事あいさつ	1
2023年度事業報告	1
令和5年度の研究の振り返り	2
令和6年度の研究の方向性	3
2024年度事業計画	4

部 長 あ い さ つ

福島県中学校教育研究会英語専門部長 菅野 浩智



コロナ禍の長いトンネルをようやく抜け出し、予定していた事業すべてを滞りなく実施することができました。各事業の計画及び運営にご尽力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。今年度は「情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫」の副主題のもと、研究を進めてまいりました。県研究協議会では、各支部代表の先生方による活発な意見交換がなされ、充実した時間を共有することができました。先生方、目の前の子どもたちは、自分の考えを「形成」し、先生方の働きかけにより考えを「再構築」し、伝え合うことはできたでしょうか？先生方一人一人が今年度の研究を振り返り、成果と課題を確認してほしいと思います。その上で、次年度に向けて、授業スキルの更なるステップ・アップを図ってほしいと思います。

子どもたちの未来を創る英語教育を

福島県教育庁義務教育課 指導主事 松本 涼一



令和5年度福島県中学校教育研究会いわき大会英語部会では、研究テーマのもと、県内各地の実践的な取組が報告されました。また公開授業では、英語を「使いながら学ぶ」生徒の姿が見られました。いわき支部として2年間取り組んできた成果が現れた授業であり、関係者の方々のご尽力に敬意を表します。

学習指導要領の改訂や学習者用デジタル教科書の導入など、ここ数年で子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しました。

アメリカの教育学者であるジョン・デューイは次のような言葉を残しています。

“If we teach today’s students as we taught yesterday’s, we rob them of tomorrow.”

教職は、子どもたちの未来に影響を与える仕事であり、彼らの10年後、20年後を見据えた教育が必要とされます。子どもたちの明るい未来のためにも、私たち自身が新しいことに挑戦し、学び続ける気持ちを持ち続けていきたいものです。

2023年度事業報告

事業名	期 日	開 催 地
● 英語専門部総会ならびに主題研修会	5月11日(木)	福島市立福島第三中学校
● 主題研修報告会	5月 下旬	各支部
● 支部研究協議会	7月 下旬	各支部
● 第1回ワークブック編集会議	8月 1日(火)	郡山市こども総合支援センター
● 第72回県下中学校英語弁論大会	9月14日(木)	会津若松市文化センター
● 県中学校教育研究協議会いわき大会	10月 5日(木)	いわき市立平第二中学校
● 第73回東北六県英語教育研究大会	11月 1日(水)	八戸市公会堂及び八戸市公民館
● 第71回東北六県中学校英語暗唱大会	11月 2日(木)	八戸市公民館
● 高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会	11月24日(金)	有楽町よみうりホール
● 定例支部長会	12月14日(木)	安積総合学習センター

令和5年度の研究の振り返りと令和6年度の研究の方向性

1 研究主題（令和4年度～令和6年度）及び各年度の副主題

(1) **研究主題** 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうあればよいか。

(2) 副主題

令和4年度 ●見方・考え方が働く言語活動（目的や場面、状況等）の工夫

令和5年度 ●情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫

令和6年度 ●言語活動（指導）と評価の一体化のための工夫

副主題の系統性（3カ年の研究の流れ）

本研究主題の追究は新学習指導要領が目標とする資質・能力の育成を実現するための研究となる。社会や世界の出来事や他者とのつながりを生徒に捉えさせるための明確な目的や場面、状況等を設定した言語活動の追究を通して、教師は、見方・考え方についての理解を深める。見方・考え方が働く場面設定（学習課題）において、生徒にどのような知識・技能を、どのように思考・判断・表現させていくのか。実践の積み重ねから、新学習指導要領が示す資質・能力の実現を目指す。目指すべき方向と方法を追究するなかで、目の前にいる生徒の実態を積極的に評価し、指導を改善していくことが、社会や世界に目を向け、相手との関わりを大切にしながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を実現していくと考える。（令和3年度 『副主題の系統性（3カ年の研究の流れ）』より）

2 令和5年度の研究について（県中教研研究協議会いわき大会より）

○研究の成果（授業者の自評より）

- ・目的・場面・状況のある言語活動を単元や授業の中で複数回設定することで、生徒自身が既習事項を活用し、自分の考えなどを表現することができた。
- ・中間指導で、言語面と内容面の両面から生徒にフィードバックを与えることで、表現内容の変容が見られた。
- ・導入における課題の提示方法を工夫することで、生徒が意欲的に言語活動に取り組むことができた。

●研究の課題（授業者の自評より）

- ・評価規準を作成した上で言語活動を実施したり、単元の目標から逆算して単元を構想したりしなければ、効果的な指導につながらない。
- ・教師が、言語材料を指定したり教えすぎてしまったりすることで、生徒の気付きを妨げてしまう。
- ・中間指導を行うにあたり、教師が生徒の活動の様子から何をどのように見取り、その見取りをもとに生徒に何に気付かせたり、何を指導したりするのが難しい。

3 令和6年度の研究の方向性について

研究3年目は、これまでの2年間で研究を続けてきた言語活動の在り方とその実践の集大成である。目的・場面・状況に応じて文法や単語を使用することができるような言語活動を、単元を通して複数回設定したり、その中で言語面と内容面の両面から中間指導を行ったりすることで、生徒が意欲的に自分の考えなどを表現することにつながっていく。3年目は、「学習指導要領」や「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等をもとに、言語活動での生徒の様子をどのように見取り、指導・評価していくことで、さらに生徒の学習意欲を高め、教育効果を上げることができるかという指導方法の探究を目指す。

(1) 学習評価の充実に向けて

中学校学習指導要領解説総則編の91ページには、学習評価の充実に向けて、①「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」、②「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」とある。学習した内容の意義や価値を生徒が実感できるようにするためには、学習した英語を活用することができる言語活動を教師が設定し、活動を通して教師が適切な指導と評価をしていくことが不可欠である。

国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 外国語」では、学習評価の進め方について図1のように示されている。単元の評価計画を含めた指導計画を作成し、言語活動の内容と評価規準を考えた上で、指導方法を考え、生徒の学習改善と教師の指導改善をしながら授業を実践していく。さらに、言語材料の指導については図2のように示されている。生徒に言語材料を初出の単元で習得させるだけではなく、当該単元以降でも帯活動や言語活動を通して、何度も活用させる場面を設定することで、言語材料の定着を図る指導過程の工夫を行う必要もある。

図1 学習評価の進め方について (p. 37)

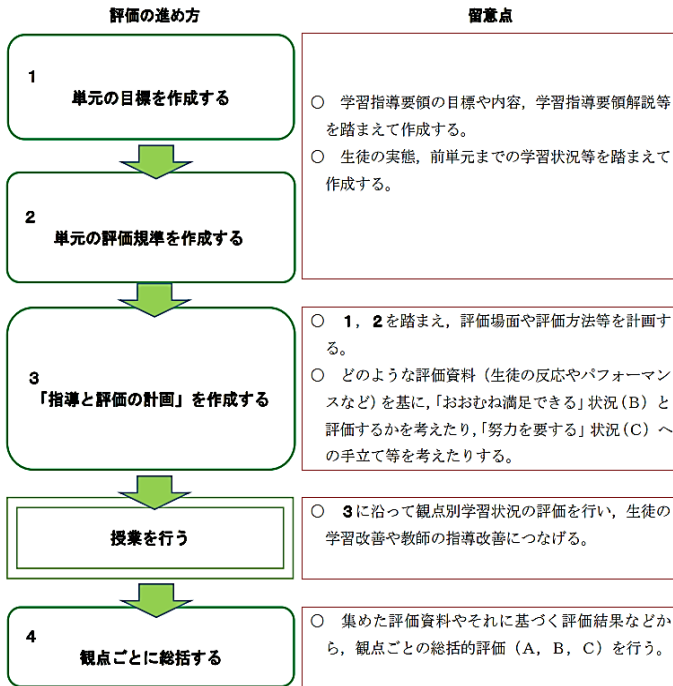
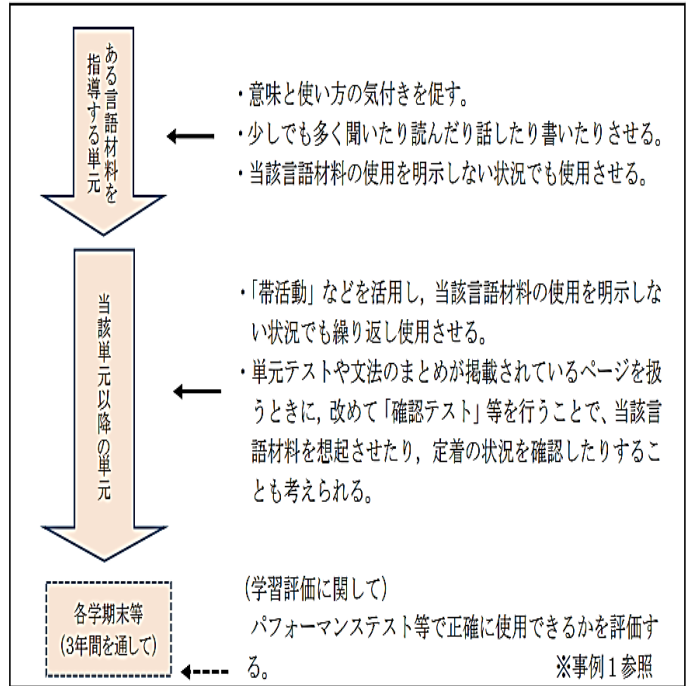


図2 言語材料の指導について(p.78)



(2) 言語活動(指導)と評価をつなげるためのCAN-DOリストの活用

CAN-DOリストの形で学習到達目標を設定することで、目標を達成するために教科書の活用の仕方を工夫しつつ、言語活動を計画したり、実際の言語使用場面で言語を使って何が出来るかということを見通した指導と評価をしたりすることができる。また、教員と生徒が目標を共有することによって、生徒自身にも、言語習得に必要な自律的学習者としての態度・姿勢が身に付くとともに、達成感による学習意欲の更なる向上にもつながる。

【単元ごとのCAN-DOリストの作り方】

- ①教科書会社で公表している単元ごとのCAN-DOリストを参考に、自校の生徒の課題や伸ばしたい力をそのリストに重ねる。
- ②単元や生徒の実態に合う領域を設定する。領域は5領域すべてを満たす必要はない。
- ③書式は、単元で何度も使え、生徒が短時間で記入し、振り返りや学習経過を可視化できるものにする。
- ④記述部分は、多少ミスはあっても英語で書かせることで、文章量が増えたり、習ったことを積極的に使うようになったりするなどライティングに積極性が出て、発信力の強化につながる。
(「CAN-DOリストの設定と活用について」福島県教育庁義務教育課HP参照)

(3) 「何を評価するのか」～評価の観点を明確に

This is a my brother, Takeshi.
He is 17 year old. He like soccer and baseball. He is on the soccer team. He practice soccer hard.
His favorite subject is science.
He study science every day. He wants to be a science teacher.

3人称単数現在形の学習後に、「あなたの家族を紹介する英文を5文以上で書きなさい」との課題を与えたら、次のような英文を書いた生徒がいた。先生方はこれをどのように評価するだろうか。

○「知識・技能」の観点到焦点を当てた場合

- ①三人称単数現在形が理解できているとは言えない。
- ②スペリングの間違いがところどころに見られる。

○「思考・判断・表現」の観点到焦点を当てた場合

- ①好きなことや将来の夢など、紹介したい内容を考えている。
- ②文の構成を考え、まとまりのある英文を書いている。

○「主体的に学習に取り組む態度」の観点到焦点を当てた場合

- ①既習事項を活用して、家族について表現しようとしている。
- ②読み手に自分の家族について詳しく伝えようとしている。

上記英文を「知識・技能」の観点を評価すれば高評価にはならないかもしれない。しかし、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の観点を評価すれば高評価になることは十分にあり得る。つまり、評価をする上で重要なのは、「評価の観点を明確にして評価をすること」、その上で「評価結果を生徒一人一人に確実にフィードバックすること」である。このような評価を積み重ねていくことが、生徒の学習意欲を引き出し、学習内容を確実に定着させるものと思われる。

2024年度事業計画

事業名	期日	開催地
● 英語専門部総会	5月10日(金)	福島市
● 主題研修会	5月10日(金)	英語専門部総会後に開催
● 主題研修報告会	5月下旬	各支部
● 支部研究協議会	7月下旬	各支部
● 第73回県下中学校英語弁論大会	9月13日(金)	矢吹町文化センター
● ワークブック編集会議	8月上旬, 10月中旬	未定
● 県中教研研究協議会福島大会	10月4日(金)	福島市立内3つの中学校
● 東北六県英語教育研究大会	10月31日(木)	福島県立葵高等学校
● 東北六県中学校英語暗唱大会	11月1日(金)	会津風雅堂
● 定例支部長会	12月上旬	未定
● 英語部報発行	2月下旬	

● 分担一覧 ●

(1) 主題研修会 (会場準備・司会・記録の支部分担)

係/年度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
会場準備	両 沼	南会津	福 島	郡 山	田 村	両 沼	いわき
司 会	相 馬	いわき	伊 達	岩 瀬	北会津	相 双	安 達
記 録	双 葉	安 達	石 川	東西しらかわ	耶 麻	南会津	福 島

(2) 県下中学校英語弁論大会 (開催地)

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
開催地区	県 中 (田 村)	会 津 (会 津)	県 南 (矢 吹)	県 北 (未 定)	浜 (未 定)	県 中 (未 定)	会 津 (未 定)

(3) 県中教研研究協議会 (開催地および分科会の発表支部)

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年	
開催地	会 津 (高田中)	浜 (平二中)	福 島 (福 島)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	
分科会	1年	安 達 いわき	南会津 東西しらかわ	田 村 北会津	安 達 いわき	石 川 両 沼	耶 麻 福 島	岩 瀬 伊 達
	2年	福 島 耶 麻	岩 瀬 伊 達	両 沼 郡 山	南会津 岩 瀬	田 村 相 双	安 達 東西しらかわ	石 川 相 双
	3年	北会津 両 沼	石 川 相 双	耶 麻 伊 達	福 島 東西しらかわ	郡 山 北会津	南会津 いわき	田 村 北会津

(4) 東北大会への参加, 発表割り当て (都合により, 令和4年度と令和5年度の割り当てを変更した)

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
	(岩手県)	(青森県)	(福島県)	(宮城県)	(秋田県)	(岩手県)	(青森県)
ブロック	会 津	県 南	いわき	県 北	相 双	県 中	会 津